

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100666		
法人名	有限会社 ヒューマン・ケア・ステーションみえ		
事業所名	グループホーム こんべいとう		
所在地	三重県桑名市星見ヶ丘6丁目919番地		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町提出日	平成23年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470100666&SCD=320□□>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 11 月 2 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族同然のような人間関係を構築し、家庭的な暮らしを大切に。専門職としてのアンテナをはり生活を支援する。一人ひとりの尊重と人生の重みを大切に、日々笑顔の絶えないよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人が実施している通所介護事業所の2階部分を事業所として実施している。厨房や浴室などを併用し、利用者同士の交流もあり自由に往来し、明るい雰囲気である。職員間のチームワークもよく、ゆったりとした家庭的な環境作りに工夫を凝らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、一文字づつ書いた習字でグループホームこんぺいとうの理念である「ゆとりある人生をあなたらしく」が共有スペースに掲げられている。代表者・管理者・職員ともに理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	開所当時に作った理念を念頭に日々実践している。またもう少し具体的な「笑顔で」とか「家庭的な」という言葉もとり入れ、職員間で話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地内にある公園などへの散歩時には挨拶を心がけており、自治会に入り、清掃や地域のイベント(夏祭り等)などにも参加し地元の方々との交流に努めている。(子供SO S表示を掲げている)	自治会に加入し、清掃参加も利用者としていたが、できなくなり職員だけ参加している。地域の行事(夏祭り、防災訓練等)に利用者と共に参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3か月に1回の運営推進会議に於いて、自治会長、及び民生委員の方々と交えて、話し合いを持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、議事録も整備されている。近況報告や自然災害緊急時対策などが話し合われている。	2ヶ月に1回の開催で開かれた事業所づくりに努力している。自治会、民生委員、家族、市職員などの参加があり、取組状況報告や、地域の情報交換の場として活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員とは運営推進会議以外にも、情報・意見の交換など密に連携をとりサービスの質の向上に取り組んでいる。(代表者は市主催の介護関連講座講師や市民活動委員長を受諾し、桑名市と連携をとっている)	法人代表者は介護支援専門委員会の県、国の役員であり、市担当者とも連携がよくとれている。小、中学生の福祉体験学習の受け入れなど積極的に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域の協力体制もあり、夜間以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はしていない。2階からの階段降り口には、夜間のみ安全柵をして危険を回避している。職員は個別対応を心掛け、自由に動けるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の講習・講演会で学んだことを、グループミーティングで公表し、又議題として取り上げ、話し合いを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身近な見識者に自立支援や後見制度の事を学び、日頃の介護につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面において十分なかつ丁寧に説明を行い、周りのスタッフに不安や疑問なことを尋ねることが、できるような雰囲気づくりを大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の多い事業所である。訪問時には担当職員などから声をかけをして意見や不満などどんなことでも言ってもらえる雰囲気づくりをしている。	利用者や家族から出された要望や意見を前向きに生かし運営に反映している。訪問時などに家族に問いかけるなどしてなんでも言ってもらえる環境づくりにも留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループミーティングを3か月に1回のペースで持ち、意見交換を行っている。	管理者は日頃から職員の意見を聞くようにしているが、3ヶ月に1回のミーティングには、代表者、管理者を交えて職員と意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に立ち寄り、各スタッフの状況を把握し、現状をいち早く察知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者福祉・地域福祉に経験豊かな代表者や管理者がスーパーバイザーとして勉強会などを開催している。職員のキャリアや能力に応じた研修内容はミーティングなどで報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の研修会などに参加し、勉強会や見学会を通じて交流を図っている。近くのグループホームとは災害時の協力体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通がなかなか難しいなかでも、寄り添い話すことで、なにかヒントを見い出しながら、本人の意思等を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会等で差し支えない程度で、スタッフも交え話しをし、家族の方々との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が希望されていることと、事業所の支援できることを考え、充分話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日頃の生活の中で人生の先輩でもある利用者に教わることも多く、ひとつ屋根の下で暮らす家族同然の関わりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、家族の方へ本人の近況報告を送り、面会にも来ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各個人の部屋には、昔撮られた写真などが、飾られている。又、フローには近辺の地図がはってあり場所がわかるようにしている。	家族から昔の写真を借りて、それを話題にしている。墓参りは家族と行ったりしている。また女学校の友人が訪ねてくれたりする。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や思いを踏まえ、利用者同士が寄り添いあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも、病院先へ出向いたりして経過を把握し、引き続き相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、思いをくみ取り、可能な限り希望に沿うように努めている。又困難な場合は、いままでの生活歴などから、スタッフ間や家族の方で検討し、その人らしい暮らし方を模索している。	日々のかかわりの中から、思いや希望を把握するように努力している。また、家族から昔のことを聞いたりし情報を得るようにして職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの自宅で使用されていた馴染みの家具や思い出の品、家族の写真等を置き、今までに近い生活環境を提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カラオケをしたり、お昼寝をする方など、心身状態も把握しながら、一人ひとりに合った過ごし方をして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	市の職員とは運営推進会議以外にも、情報・意見の交換など密に連携をとりサービスの質の向上に取り組んでいる。(代表者は市主催の介護関連講座講師や市民活動委員長を受諾し、桑名市と連携をとっている)	利用者毎に担当職員が決めてある。ミーティングで意見を聞き、管理者と計画作成者の3人で、最終見直しをして家族に確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れがわかるよう時間帯別に気づいたことや状態などを記録し、勤務の引き継ぎの際などに漏れないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望や状況に応じて通院等には柔軟な個別支援を行っている。音楽療法の参加や馴染みの場所への支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校行事等に参加したり、中学校の福祉体験を受入れ、子供の関わりを通じ現役時代の想いを引き出し、現在の生活にいかせる支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの主治医と信頼関係を築いている。又、かかりつけ医とは昼夜を問わず相談できる環境であり、適切な診断や治療が受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診が月に1～2回ある。他受診の場合は家族の同行でお願いしている。家族が出来なくて職員の同行もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内のサービスの看護師に相談し、指示を仰いでいる。又、かかりつけ医の看護師と電話連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との連携を密にして、入院や退院日時などをきめている。往診時などに情報交換し相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族の希望を確認の上、主治医とも相談してかかりつけ医・職員・家族の協力のもと支援している。(現在までに2名の方が終末期を事業所で過ごされている。)	以前に看取りの経験をした職員もいるが、新しい職員も増え、話し合いが必要である。終末期に向けての対応について、協力医、家族、職員との話し合いをもち取り組んでいく予定である。	終末期に該当する利用者が、最近退院されたので早急に、家族と看取りの指針について話し合いをもち、職員が安心してケアに当たれるような取組みに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導による救急法を受講して、ミーティング時に全スタッフに申し送り、勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、不備な点などを見直しを行っている。地域の避難訓練にも参加し、協力体制が得られるように働きかけている。又、夜間想定避難訓練も行っている。	同一法人の通所介護事業所と一緒に訓練を行っている。消防署職員からも避難方法についてアドバイスをもらい職員間で検討し、訓練につなげている。また、訓練の責任者を順番に担当し実践力を身につけている。	地域住民の参加もある避難訓練をされているが、実際にどこの部分で支援をしてほしいかなど話し合いをしたり、地域住民からの情報を取得され一層の取組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたい言葉かけや対応を行っている。個人情報の保護についても良く理解している。	慣れ合いからぞんざいな言葉使いにならないように気をつけたり、自分の親と思い対応するよう話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と常に寄り添い、語り合うことで、本人の思いをくみ取り、自己表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念「・・・あなたらしく」を実践した暮らしの支援が日々行なわれている。職員間でも都合を優先するのではなく利用者一人ひとりに寄り添った支援の意思統一がなされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時期に合った、その人らしい服装を提供している。散髪もスタッフが会話をしながら、その人に似合った髪型になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者一人ひとりの意欲や能力を引き出しながら食事の準備や片付けを一緒に行い、食事中も会話を楽しみながら支援している。	食堂が1階で、エレベーターで降りる利用者があり食事時間が揃わないので自分のペースで自由に食べている。職員の介助による利用者も会話を楽しみながら食事をしている。重度化により食事の準備の出来る利用者は1人だけである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューをもとに季節の食材や近隣で収穫された果物など、バランスの良い献立を提供している。食事量や水分量、又塩分量などは一人ひとりの状態などに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の入れ歯の洗浄、歯磨き、うがい、口腔内の残留物の確認を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに合った時間で、トイレ誘導を行い排泄を促している。	自立の利用者は2人で、それ以外はリハビリパンツかオムツである。昼間は排泄パターンを把握して、それぞれ誘導し自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立にせんい質の多いものを取り入れたり、水分を多めに取ってもらっている。歩行練習や入浴の際のマッサージにも取り組み、便秘予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の16時～18時に利用者の心身の状況やその時の気分、希望に合わせて、坪庭を有した明るい浴室での入浴の支援をしている。	夕方の時間帯に入浴をしているので、ゆったりと入浴をして、夕食をするという事で利用者も落ち着いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝も必要に応じて取り入れ、就寝時の空調も快適に眠れるよう適温に設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報リストやミーティングでスタッフが理解することで、体調の変化を察知し、素早い対応につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、出来ること・得意なことなどを十分理解することで、それを活かした楽しみ事や出番を発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	裏庭にあるスペースで過ごしてもらったり、折々の季節を肌で感じてもらえるよう、一か月に1回は利用者の希望も踏まえ、外出できるように支援している。	月に1回は花見、買い物、神社詣り等に出かけている。日曜日には、裏庭に出て外気浴をしたりする。利用者の希望があれば外出出来るように支援しているが、重度化により外出希望が減っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状としてお金を所持したり使えたりできる方は見えない為、家族の方が必要に応じて出されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をかけることが難しくなっている為、スタッフが間に入り電話のかけはしをしたり、手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体の空調や換気は整備され、高齢者の生活に配慮が行き届いた共有空間である。季節の草花など随所に配置し、座り心地の良いソファや椅子が置かれ居心地良く過ごせる工夫をしている。	天然木材を使用した建物で、木の香りが漂い、空調や、換気が整備されている。共用の空間も明るく落ち着いた雰囲気でも過ごせるよう椅子等がおかれ壁面に季節の飾りなどがしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に座り心地の良いソファや椅子を置き、利用者同士で語り合い、思いやりの持てる場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族も泊まれるスペースもある居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた物品を置き、本人の時間を大切に気持ち良く生活できるように工夫している。	家族も泊まれる居室など3タイプからなっている。どの居室も押入れと洗面所が取り付けられてあり、明るく、きれいに整頓している。テレビや家具を置き居心地の良い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は木造で落ち着きとぬくもりが感じられ、フローはバリアフリーになっており、運動をされる方もみえ自立した生活を送れるよう工夫している。		